

第5回せんがわ劇場演劇コンクール  
本選出場団体・公演スケジュール決定!

一次審査(予選)を経て、今年の本選に挑む6団体と、その公演日程が決まりました。本選は、各団体が40分の作品を7月12日(土)、13日(日)の2日間にわたって上演。審査により、各1団体にグランプリとオーディエンス賞が、優れた演出・脚本・俳優には個人賞が贈られます。

【①団体プロフィール ②作品タイトル ③あらすじ】

7月12日(土)【1日目】

13:30~14:10 劇団晴天  
14:55~15:35 劇団ポニーズ  
16:20~17:00 ヘアピン倶楽部

7月13日(日)【2日目】

13:30~14:10 アカネジレンマ  
14:55~15:35 イマカラメガネ  
16:20~17:00 劇団820製作所  
18:30~19:30 <表彰式>

◀入場は無料(要申し込み)。調布市民の皆さまも、演劇ファンも、そうでない皆さまも大歓迎! 2日間の熱い演劇バトルを、ぜひご覧ください。詳しくは、せんがわ劇場まで。

せんがわ劇場「市民サポーター」募集中!

この広報誌「121press」の企画や取材、原稿制作、レイアウトなどにご協力いただける方も随時募集中です!

劇団晴天

①2013年4月1日結成。東京都調布市仙川を拠点とし活動している。笑って泣ける良い話の中、少女売春・限界集落など描く状況は意外とシビア。色んな現実、あきらめて頑張ろう、という後ろ向きに前向きな応援歌のような芝居と、新しい切り口で描かれる若者たちは、幅広い年齢層に支持を得ている。誰もが思うけれど、今更誰も言えないことをわざわざ言葉にし、ほんとに悩んでほんとに生きる、真正面切って熱くきらめく若いやつら。



第四回公演「桜の街」より

②『真夏の雪が見えたとして』

③「きれいより好きだったのほうがいいね」わたしはもうすぐ結婚する、そんなとき同窓会は始まる。みんなに秘密がもちろんあって、あの頃みたいに麦茶はおいしい。

劇団ポニーズ

①2011年7月に結成し、本公演やオムニバスなど9公演を上演。演出を画家の青山健一が担当。テーマに拘らず日常を丁寧に描くことで見ている人それぞれにピン트가合う一言やシーン抽出し、日常にある人間の可笑しみをふんだんに盛り込んだコメディ



を得意とする。老若男女誰にでも楽しんでもらえる茶番精神あふれるバカバカしい作品を上演。メンバーの外部活動も多岐にわたる。<http://gekidanponys.blogspot.jp/>

②『HIPHOP 町工場』

③お金も名誉も権力もない虐げられた境遇を嘆く町工場職人フミオが、日々書き溜めたラップノートを夜な夜な浮世に解き放つ。町工場ラッパーのよくある悩みを完全舞台化!

ヘアピン倶楽部

①演劇ユニット。演劇とは何か? という、大きな疑問を足がかりとして人が人前で行う圧倒的に不自然な演劇、演技という行為、さらには人間という生き物、全ての事を疑って、検証していくというある種の試みをもって、主宰の有川を中心に結成される。2012年より活動開始。



②『冬の旅』

③冬、ある事情で、祖母との旅に出る。祖母は最近物忘れがひどくなっているらしい。祖母は記憶をたどるように、昔や今の事を断片的に話す。……そして、どうしようもなく、時は流れる。

アカネジレンマ

①2005年旗揚げ。等身大の登場人物たちの淡々とした日常をベースにした群像劇を得意とする。ふとした瞬間にしか気付けない「一期一会」を描く。小劇場でなければ伝えられない温度にこだわり、人間の「ぬくもり」と「孤独」をうつしだす作品を作り続けている。



②『x+y』

③廃校になる学校を舞台に、タイムカプセルを探しにきた卒業生と、教師たちが「過去」を掘り起こす。十年前の少女失踪事件に秘められた、「教育」をめぐる物語。

イマカラメガネ

①2003年旗揚げ以降、一貫してアラサー・アラフォーと呼ばれる女性を中心にコメディを作り続ける。最初は台本を用意せず、エチュードを繰り返して物語を完成させることにより、観客により近い「日常共感型」の芝居を作り上げる。近年は、Youtubeに動画投稿をするQSCコンテストに出品、二年連続最終審査に残った。12月には初のギャラリー公演を予定している。



②『心配な女』

③35歳独身で無職の女が、恋人と同棲中で人気ブロガーの後輩と再会する。全てを手に入れた後輩を、なぜか心配する何も持たない女。現代女性が求める「幸せ」について描きます!

劇団820製作所

①820製作所(はにわせいさくしょ)は2004年に旗揚げし、東京圏を活動の拠点として、演劇の公演を重ねてきました。「本当はそこにあるおとぎ話」をキャッチフレーズとして、生活と人、人と世界のあいだに横たわる詩を、わたしたちの背後に作動するものがたりを、作品化するのを試みています



②『踏みはずし(Retake)』

③教室にいて、彼方を思うこと。風と光、窓、そこに広がる森の、その奥に迷いこむこと——そうして、かならず帰ってくる。あるいは森の奥でつづけたかいいについて。

写真「せーの あれから世界は篇」撮影:BOZZO

編集後記

劇場にまつわるさまざまな活動が、街のあちこちで同時並行的にいろいろな方々と関係しながら進んでいます。演劇公演や演奏会、各種ワークショップや朗読の試み、地域のイベントへの参画などなど。この街・この劇場に関わる多様な表現者やスタッフの連携も、着実に広がっているようです。劇場が街に根付き、交流の場となっているのを実感します。(光)



せんがわ劇場応援マガジン 121press 第6号  
平成 26 年 6 月 24 日発行

編集 調布市せんがわ劇場 市民サポーター

発行 調布市せんがわ劇場

〒182-0002 東京都調布市仙川町 1-21-5

TEL : 03-3300-0611 FAX : 03-3300-0614

HP : <http://www.sengawa-gekijo.jp/>